

学校 教育 目標	ひびきあい かがやく 洋一の子 ～豊かな心を持ち、仲間とともに、すすんで未来を拓く子を育てます～ 好奇心をもちながら、主体的に考え、学び続ける子を育てます。(知) 自分と周りの人を大切にし、思いやりの心をもった子を育てます。(徳) 自分の健康に関心を持ち、心身ともにたくましく生きる子を育てます。(体) 地域に目を向け、周りの人と協力して行動する子を育てます。(公) 違いを認め、誰とでも分かり合おうとし、共に生きていく子を育てます。(開)				
	学校 概要	創立 51 周年	学校長 中村 智	副校長 宮崎 恵子	2 学期制 一般学級: 18 個別支援学級: 5 児童生徒数: 571 人 主な関係校: 洋光台第一中学校

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分づくりに関する力>	洋光台第一中学校 洋光台第一小学校 洋光台第三小学校	①「洋光台のまち」を大切にすることも②自尊心を高めていく子ども③楽しく学習に取り組む子ども ①学校づくり懇話会をブロック合同で行い、互いの課題や重点研究の情報を共有し、地域で関わり合いながら、地域に貢献する子どもを育成する。②ブロック合同で人権研修を行い、他人の気持ちを考えて行動し自尊心を高めていく子どもを育成する。③9年間を見通したカリキュラムの作成や小中交換授業を行い、小中一貫教育カリキュラムの授業を通し、主体的に学習に取り組む子どもを育成する。

中期 取組 目標	教育目標の実現に向けて、すべての子どもが豊かに学び、ともに高めあう学校づくりを推進します。
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人ひとりが分かる授業づくりをめざし、確かな学力の定着と主体的に学習に取り組む態度を育てます。 ○ 「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校づくりをめざし、「自尊心」を高める取り組みを推進します。 ○ 一人ひとりの支援ニーズ(教育的ニーズ)の把握と支援システムの整備を進め、全ての子どものための支援教育を推進します。 ○ まちの「人」とのつながりを意識して、豊かな体験を通して「洋光台のまち」を大切にすることを育てます。 ○ 教職員全員が連携してチームとして取り組むことを基本に、魅力ある特色ある教育活動を展開します。

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①国語科を重点研究として取り組み、目的意識や相手意識を明確にし、見通しをもった単元構成や授業展開ができるようにする。②自分の課題をとらえ解決していくために、振り返りの充実や活用、手立てやしなげを工夫しながら主体的に学習を進められるようにする。
豊かな心	①子どもの実態をもとに、教科書や道徳教材を計画的に活用し、「道徳の時間」の充実を図る。②人権目標を考え、それを意識した日常的な取組や、人権週間での取組、YPの年間指導計画を活用し実施していくことなどを通して、人権尊重の意識を高め、自己有用感の育成を目指す。
健やかな体	①体育的行事や1校1実践運動等、限られた条件の中で楽しく体を動かすことができるよう活動を工夫して取り入れ、すすんで運動しようとする態度を育成する。②学校保健委員会の取組を通して、姿勢が健康に影響することを知り、よい習慣を続けようとする態度を養う。
特別支援教育	①ユニバーサルデザインを基本に、学習環境の整備と理解しやすい授業づくりを進める。②複数の教職員が関われる教科分担任制等を生かし、一人ひとりの支援ニーズをつかみ、T、TやA、Tによる支援、国際教室、第2学習ルームの利用など、安心して学習に取り組めるよう工夫する。
地域連携	①地域協力者による出前授業や地域防災訓練等に積極的に児童と職員が参加し、地域との関わりを深める。②学校づくり懇話会や学校便り、ホームページなどを積極的に活用して教育活動について発信し、地域と連携していく。地域と連携し、昨年延期された50周年記念事業に取り組む。
自分づくり教育 (キャリア教育)	①学習や学校行事等で、地域の方々と交流する場を意図的に設定し、地域と連携して自分の役割を意識できる子どもを育てる。②キャリアパスポートなどを通して自分の軌跡を振り返ることで、成長を実感したり、よさに気付いたりしながら、自ら意思をもって、判断していけるようにする。
いじめへの対応	①いじめはどこでも起こりうるという共通理解のもと、管理職を含めたいじめ防止対策委員会で情報を共有する。その話し合いを毎月職員会議で報告し、全教職員で共通理解を図り、組織的な対応力を高める。②教科分担任制等を通して、より多くの教職員で児童を見守る体制を作る。
人材育成・ 組織運営 (働き方改革)	①運営委員会や学年研等での情報共有を円滑にし、検討事案や児童の様子等を共有し合える体制をとり、安心感と自己有用感をもって業務を進める。②グループウェアの効果的な活用を進め、円滑な情報共有体制を整える。また、職員室アシスタントの活用やプール清掃の業者委託等を行い、業務の効率化に継続して取り組む。